

【演題番号】 P1-1-9

【タイトル】

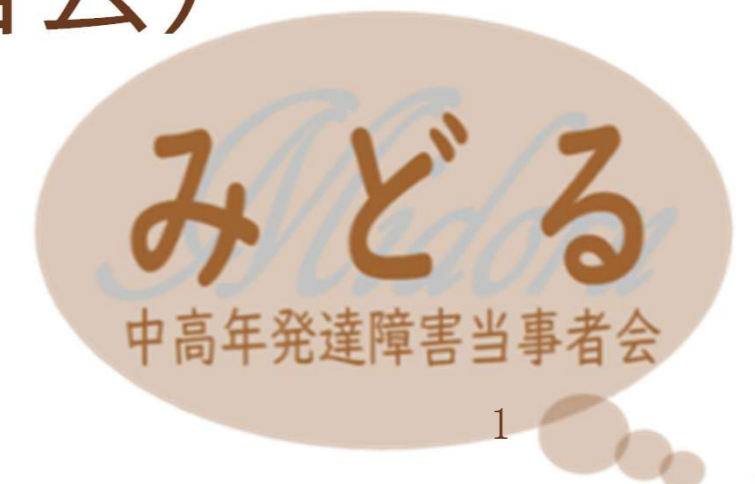
中高年発達障害当事者会における参加者ニーズと会の効果に関する定量的調査

【小見出し】

当事者会の参加者ニーズの実証的検証

【発表者・所属】

山瀬健治(みどる中高年発達障害当事者会)



【調査対象・方法】

【調査対象】

「みどる中高年発達障害当事者会」参加者(40歳以上を主とする中高年層)から242件のアンケートを収集。調査期間は2024年2月から2025年10月。

【調査内容】

- ・基本属性(年齢・性別・参加回数・移動時間)
- ・参加動機(複数回答)
- ・参加して良かった点(複数回答)
- ・総合満足度、会での居心地評価
- ・会への期待(情報入手、相談機能、居場所、仲間づくり)

【分析手法】

クロス集計、満足度・参加回数・移動時間別比較、相関分析。

「みどる」参加者 アンケート

ご参加ありがとうございます。今後の運営改善のため、アンケートへのご協力をお願い致します。

2024/09/01 Ver

Q1 年齢について、あてはまるものはどちらですか？

- 39歳未満 40～44歳 45～49歳 50～54歳
 55～59歳 60～64歳 65～69歳 70歳以上

Q2 性別(自認している性)について、あてはまるものはどちらですか？

- 男性 女性 その他

Q3 「みどる」への参加回数をお教えてください。

- 初めて 2回目 3回目 4回以上

Q4 本日参加しての総合的な感想をお教えてください。

- とても良かった 良かった 普通 やや良くなかった とても良くなかった

Q5 ご自宅から会場までの片道の移動時間をお教えてください。

- 30分以内 30分～1時間 1時間～1時間30分 1時間30分以上

Q6 今回参加された理由をお教えてください(複数回答可)

- 具体的に聞きたい質問があった 他の当事者と交流したかった 情報がなくて困っていた
 その他(自由記述)

Q6 参加して、良かった点を挙げてください(複数回答可)

- いい情報が得られた 前向きになれた 気分が楽になった 楽しかった
 その他(自由記述)

Q7 会での発言のしやすさや居心地の良さ

- とても快適だった やや快適だった 普通だった やや不快だった とても不快だった

Q8 当事者会に期待していることをお教えてください(複数回答可)

- 相談機能 情報入手 居場所 仲間づくり
 その他(自由記述)

Q9 「みどる」へのご意見・ご感想・ご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

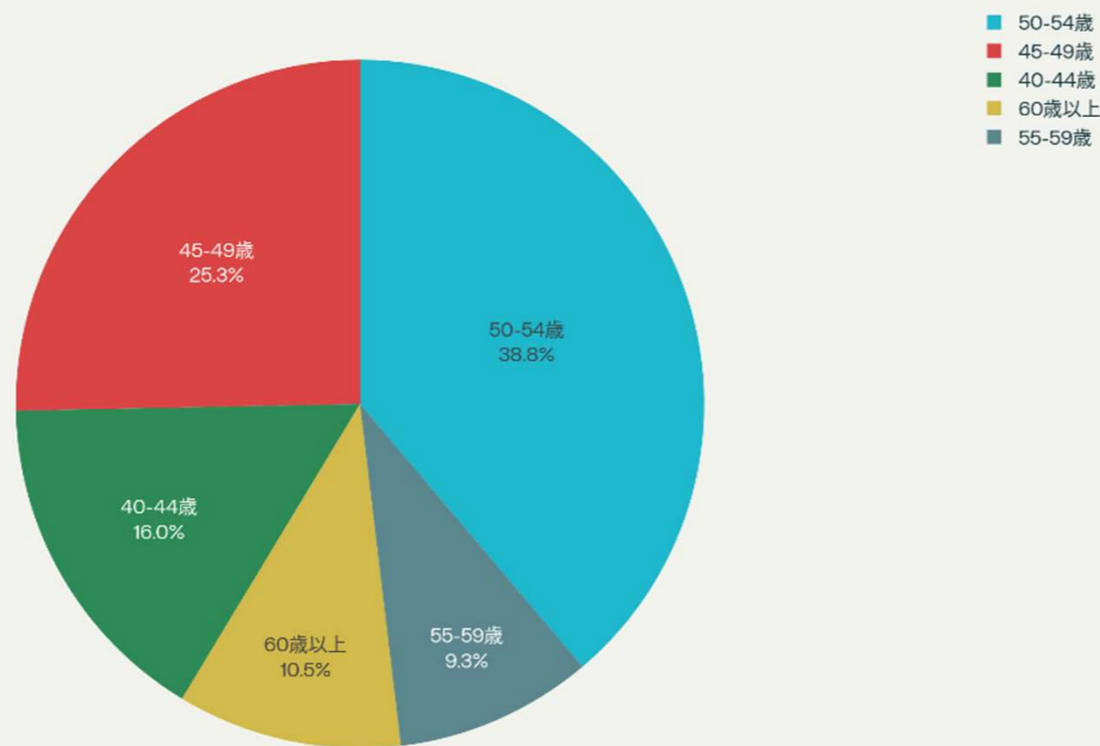


「こくちずプロ」でのアンケートにもご協力ください。⇒

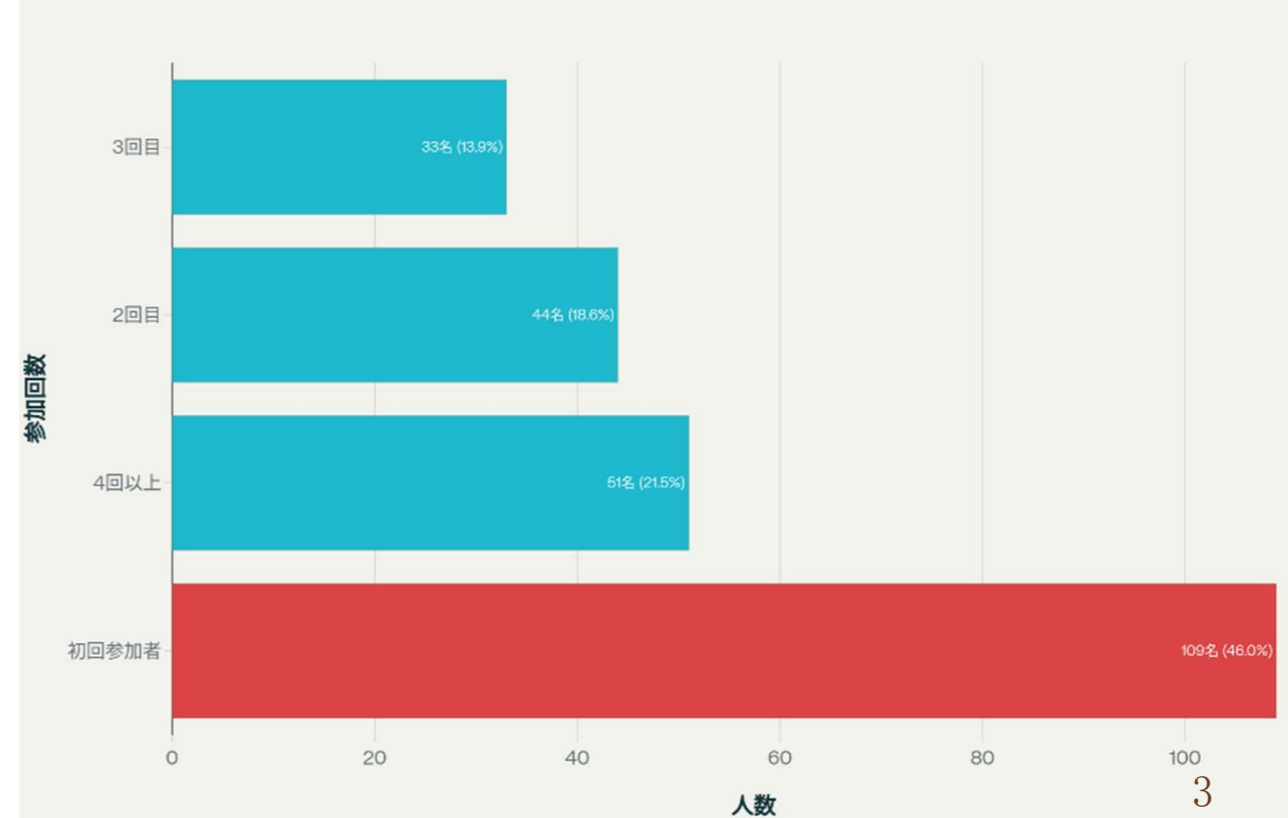
【参加者の基本特性】

- ・50～54歳が38.8%で最多、40～59歳で約8割。
- ・参加回数は初回が46.0%を占め、新規参入が多い。
- ・男性52.7%、女性46.4%でほぼ均等。
- ・遠方(1時間以上)からの参加も多い(約40%)

参加者年齢分布 (N=237)



参加回数分布 (N=237)

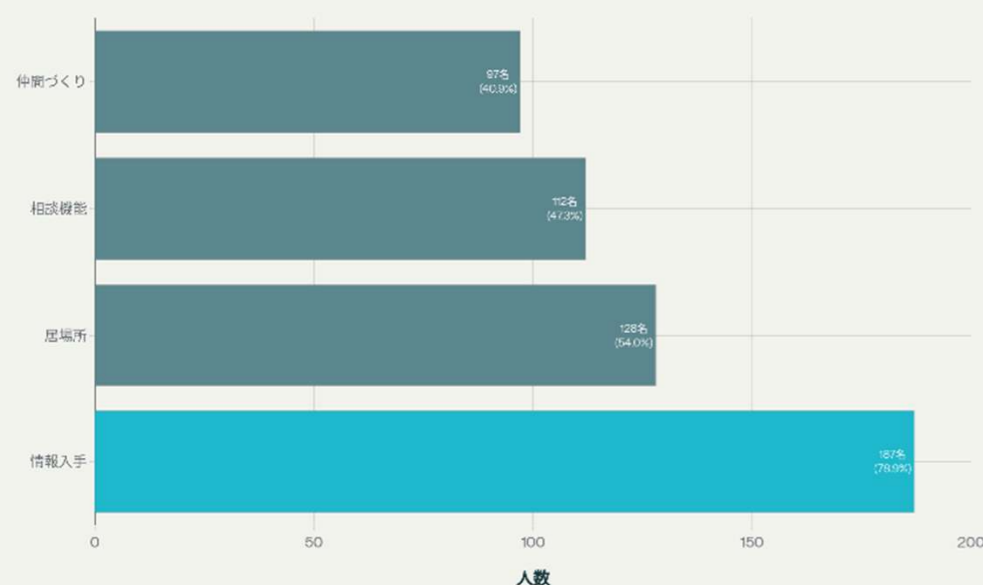


【中高年発達障害者のニーズ分析】

核心的発見「情報ニーズ >> 居場所ニーズ」

- 78.9%が情報入手を最重要視、居場所需要は54.0%に留まる。
- 最も満足を感じるのは「いい情報が得られた」(72.2%)
- 全年代で一貫して情報ニーズが優先される傾向を確認。

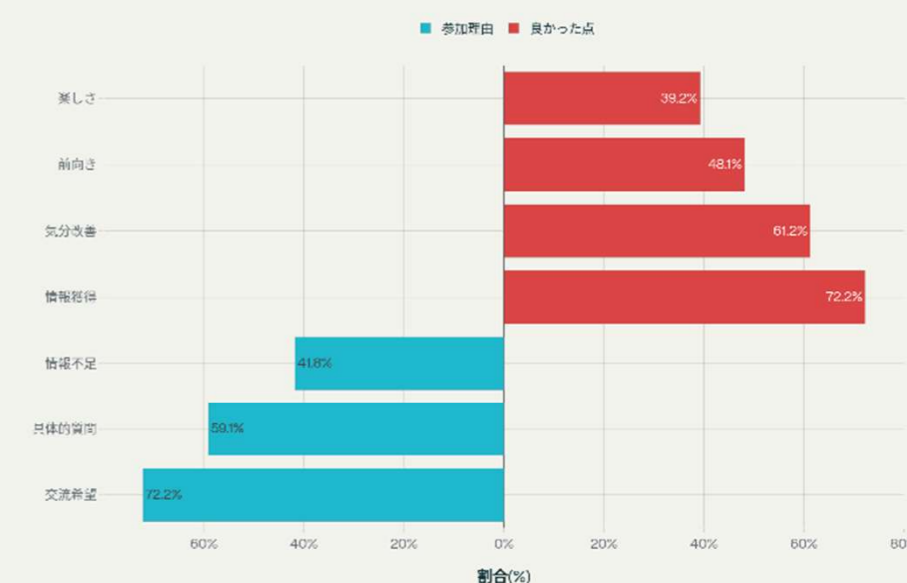
当事者会への期待 (N=237、複数回答可)



年代別ニーズ比較

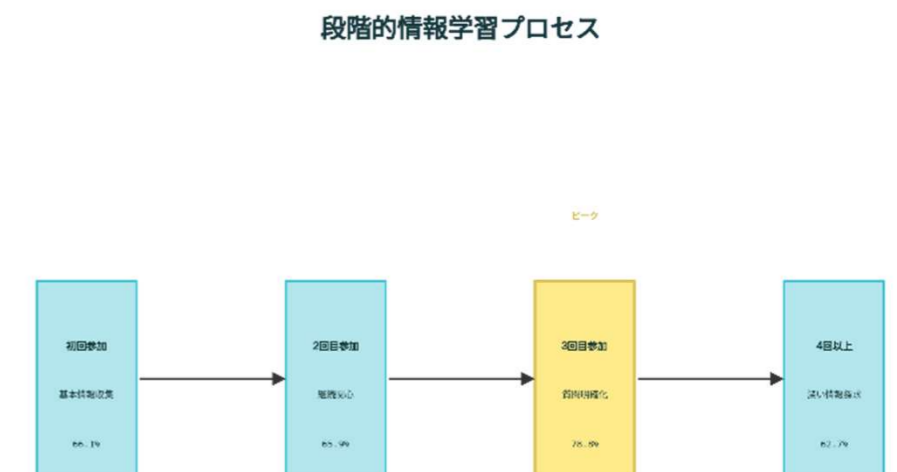
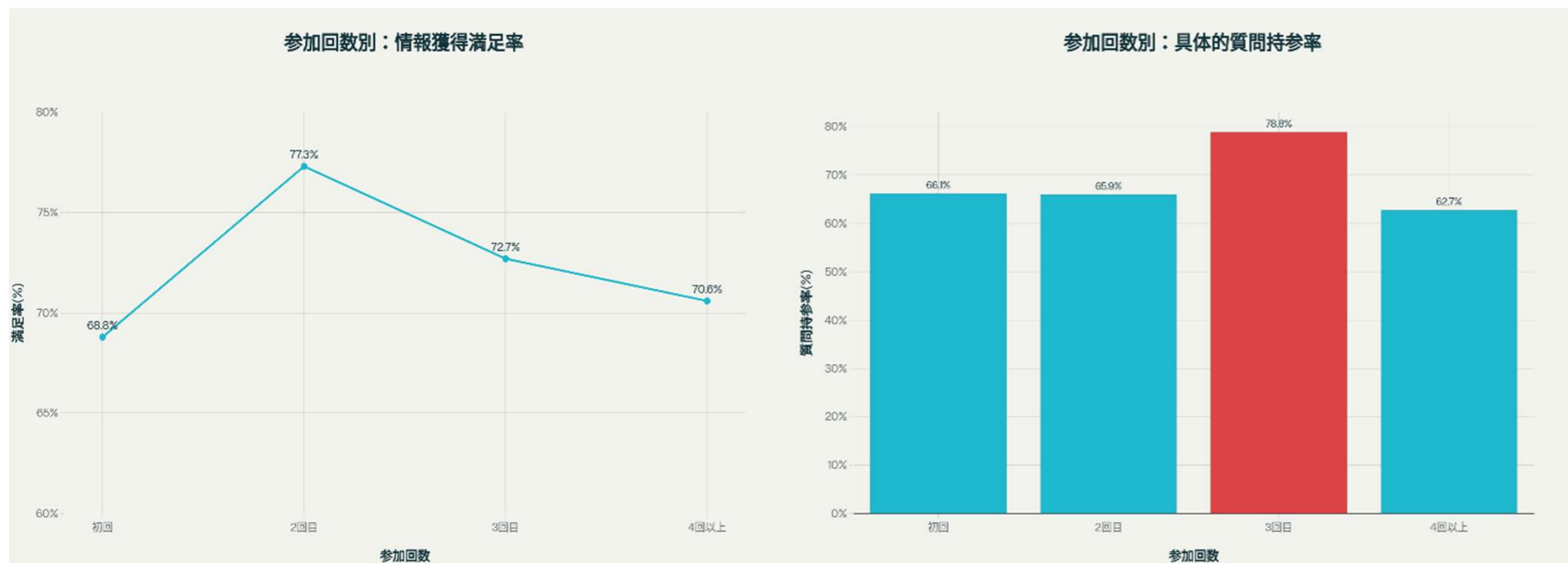


参加理由と良かった点の対比



【継続参加と情報獲得の関係】

- 初回から高い情報獲得満足度を示し、2回目でピークを迎える。
- 3回目で質問持参率が78.8%と最も高く、段階的学習プロセスを示唆。
- 4回以上も高い満足度を維持。



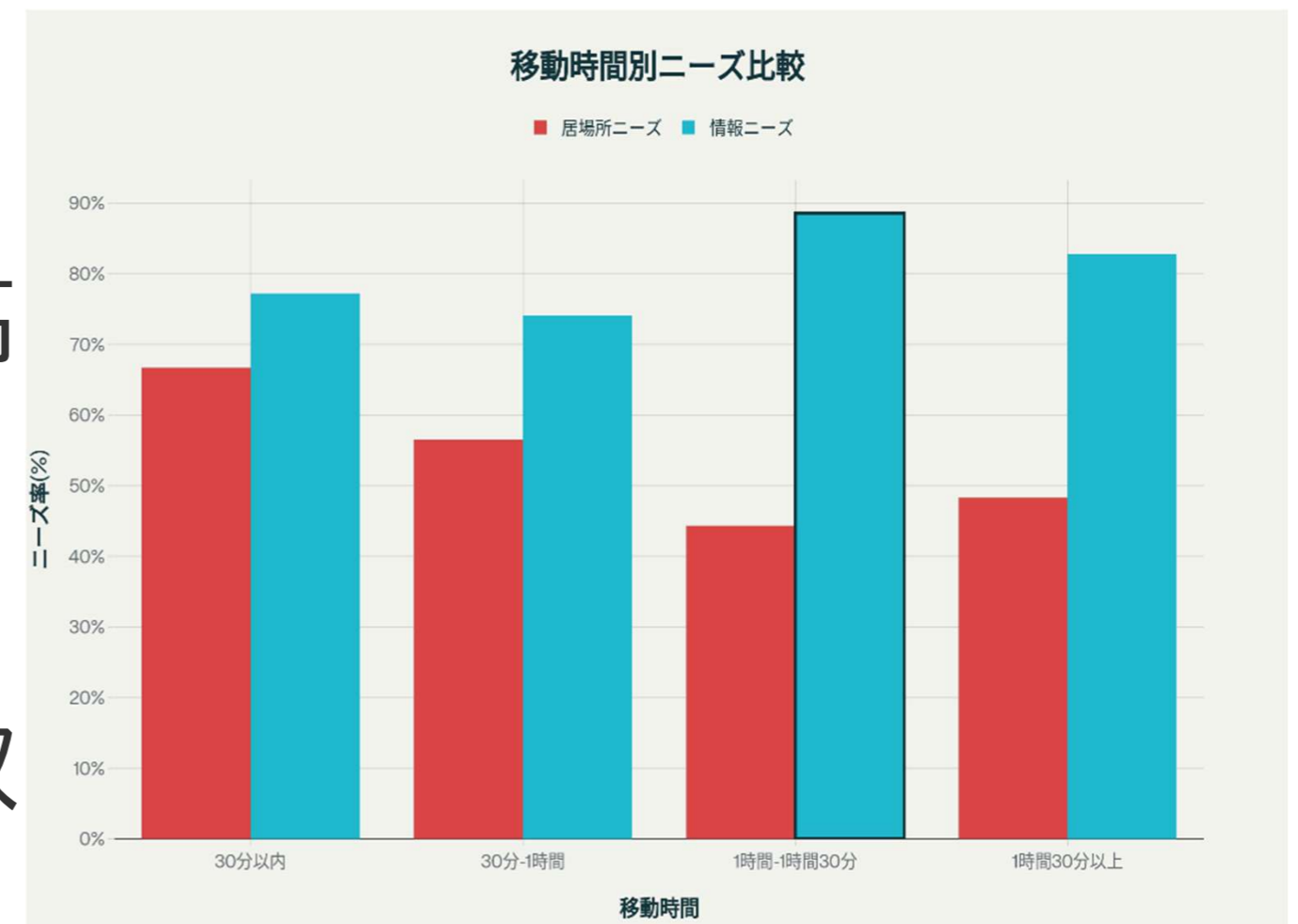
【移動時間と情報ニーズ】

【遠方参加者ほど情報ニーズが強い】

- 1時間以上の遠方参加者は86.9%が情報入手期待。
- 近場参加者は居場所期待がやや高い傾向。

【移動時間別のニーズ率】

- 移動距離が遠いほど明確な情報収集の目的を持ち、積極的な参加姿勢がみられる。



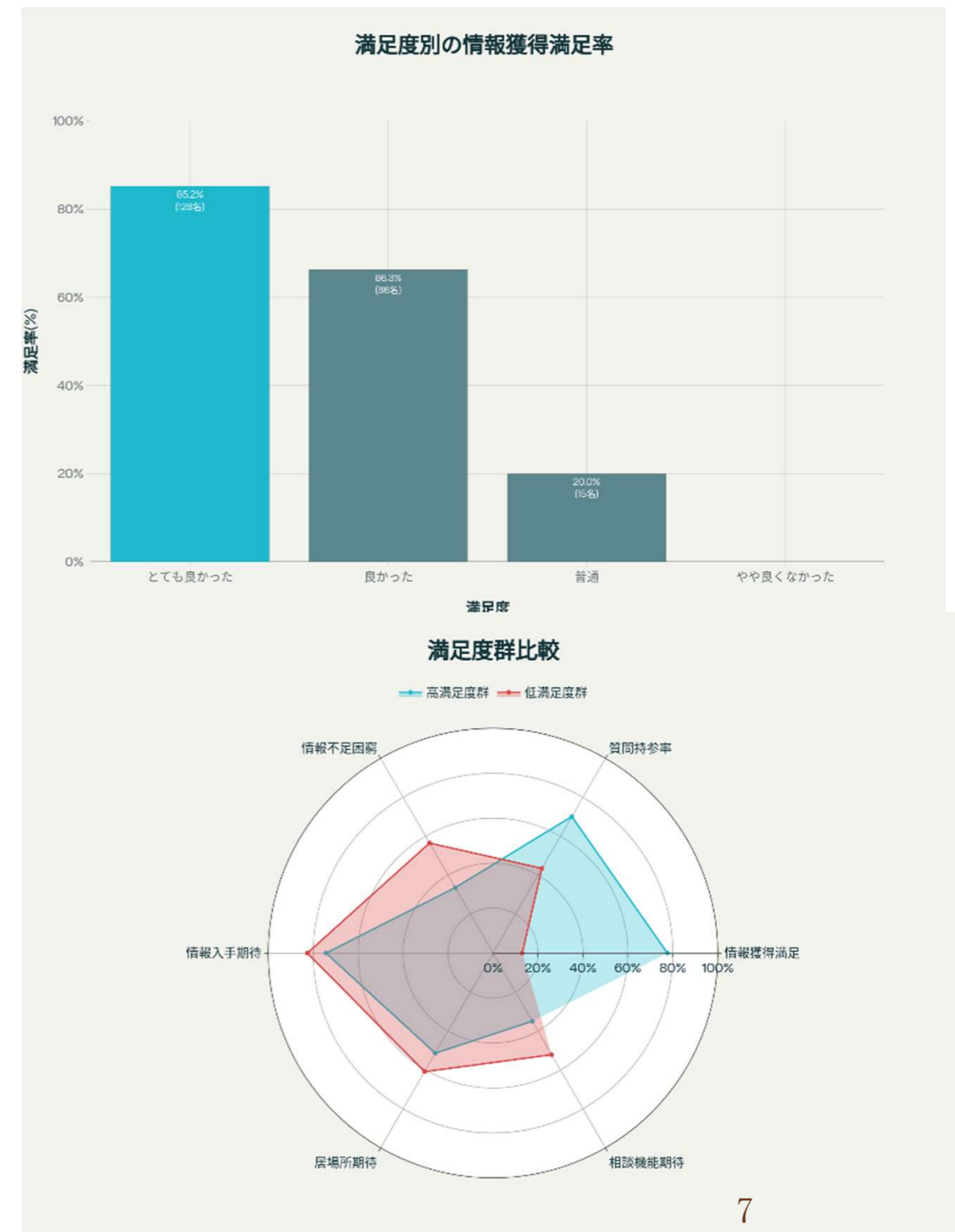
【参加の満足度と情報入手の関係】

【満足度と情報入手の相関】

- 中程度の正の相関(0.455)を確認。
- 「とても良かった」群は85.2%が情報獲得に満足し、満足度の最重要決定因子となっている。

【高満足度 vs 低満足度群の特徴比較】

- 高満足度群は質問持参率が高く、情報不足感は少ない。
- 低満足度群でも82.6%が将来の情報入手を強く期待。



【考察・結論】

【考察】

- ・中高年発達障害者は当事者会に「実用的情報提供」を最も求めている。
 - ・これは公的な支援機関による情報提供の不足を示唆している。
- ・参加継続により情報ニーズが深化し、特に3回目参加で質問が具体化される。
- ・遠方参加者の高い情報志向は参加意欲の強さを示す。
- ・情報入手の満足度が総合満足度の重要な決定因子。

【結論】

- ・実証的な根拠に基づき、当事者が求める情報を公的に提供できる体制の必要性が示唆された。

【今後の課題】

- ・当事者の求める情報の体系化とプログラム開発

【COI開示】

- ・アンケートは無記名で実施し、個人は特定されず、本研究に関して開示すべき利益相反はない。

【謝辞】

- ・「みどる中高年発達障害当事者会」の参加者およびスタッフの運営に感謝いたします⁸。